

■ 頼杏坪 儒学者、藩政家。前半生は学者として兄春水をサポートし、後半生は藩の役人として優れた民政を行った。

らいきょうへい

・ ・ ・ ・ ・ 1756 = 瀬戸内の安芸国竹原で、紺屋又十郎の三男に生まれる。長兄は春水・次兄は春風。

教育熱心な家庭環境で、のちに広島藩儒となる兄春水の指導も受けて育ち、

大岡忠光没・1760 = 4歳：

幼時から書にも優れて、

千代女句集・1764 = 8歳：

錦絵始・ ・ ・ 1765 = 9歳：

早くも、竹原忠海に立ち寄った朝鮮通信使に叔父に連れられて面会し、面前で大書して使節を驚かせ、

田沼意次老中1772 = 16歳：

大原騒動・ ・ ・ 1773 = 17歳：大坂にいた長兄春水の許に、次兄春風と共に寄寓、

解体新書・ ・ ・ 1774 = 18歳：

兄から教えを受け、片山北海の{混沌社}に出入して詩藻を磨く。

・ ・ ・ ・ ・ 1777 = 21歳：

父と石見に旅行した際の紀行文「遊石稿」が大坂の大儒中井竹山を感嘆させるほどで、

・ ・ ・ ・ ・ 1781 = 25歳：

兄春水が広島藩に出仕することになり、

天明大飢饉始1782 = 26歳：広島に移る。

蘭学階梯・ ・ ・ 1783 = 27歳：さらに、江戸詰となった兄春水の家来として江戸に赴き、閩斎学派の儒者服部栗斎について学び、

意知刺殺事件1784 = 28歳：広島に戻る。

蝦夷初調査・1785 = 29歳：\*広島藩に召されて儒員となり、兄春水を助けて朱子学を藩学問所の西堂に講じ、東堂の古学派としばしば

対立しながら、勘定奉行から求められて郡政について度々意見を述べ、

田沼意次失脚1786 = 30歳：天明大飢饉で藩内でも一揆が起こる。「原古編」を著わし、朱子学の振興に専念するとともに、

寛政改革始・1787 = 31歳：藩が一揆の首謀者を捕えて斬首したことなどから、農村の現実を直視するようになり、

やがて、頼兄弟の力によって、広島藩から古学派が追放される。

ヲスむ来日・1792 = 36歳：

松平定信引退1793 = 37歳：

昌平覺始・ ・ ・ 1797 = 41歳：

\*兄春水に代わって、江戸邸在住の世子斉賢の侍読となり、春水の息子山陽を連れて江戸へ赴く。

蝦夷地直轄始1799 = 43歳：

斉賢が藩主となると、さまざまな建議をするとともに、その藩主に従って東西を往復、

宣長没・ ・ ・ 1801 = 45歳：

兄春水とともに、藩主から命じられた「芸藩孝義伝」初編発行。

アリカ船来航始1803 = 47歳：

以降は、兄春水に代わって、江戸・広島間を4往復。

・ ・ ・ ・ ・ 1810 = 54歳：

ゴッコン拿捕1811 = 55歳：\*儒者としては異例の御納戸奉行上席・郡役所詰に登用され、行政役人としても有能な働きをする。

高田屋拿捕・1812 = 56歳：この年、日吉神社で敬老会を主催した記録が残る。

浮世床・ ・ ・ 1813 = 57歳：統治が最も困難とされた三次・恵蘇兩郡の代官に任じられると、度々飢饉に襲われる山内村全村民に柿の

木を植えさせ始め、

黒住教・ ・ ・ 1814 = 58歳：農民救済のため、藩に「三次恵蘇郡救方に付申上る覚」を提出、

伊能測量終・1816 = 60歳：長兄春水が死去、遺児山陽の面倒を見始める。奴可・三上兩郡の代官も兼任し、

杉田玄白没・1817 = 61歳：宋の儒学者の教えを和訳した「論俗要言」を刊行。

水野忠成老中1818 = 62歳：さらに「鰥寡孤独救方に付申上る書」を提出後、「芸藩通志」編集の命を受け、

群書類従完結1819 = 63歳：

シゴト鳴滝塾1824 = 68歳：

公務に携わる者への訓戒述べた「食禄旗」を著す。

異国船打払令1825 = 69歳：次兄春風が死去。「芸藩通志」を完成。加増されて250石。

日本外史・ ・ ・ 1827 = 71歳：

山陽の母・春風の孫を連れて京坂に行く。郷土の文教発展に尽くした20人を選んで、磯宮八幡神社境内に創

設した{郷賢祠}に祀る。

シゴト事件・1828 = 72歳：

三次町奉行に昇進、

シゴト追放・1829 = 73歳：

山内村に植樹させた3000本の柿の木全てが実をつけ、記念の"充糧碑"が建立され、奴可・三上・三次・恵

蘇4郡を巡回して、詳細に報告後、

富籤流行・ ・ ・ 1830 = 74歳：記念して日吉神社境内に充糧碑を建立。\*致仕して隠居。

鼠小僧磔・ ・ ・ 1832 = 76歳：山陽が死去。

天保大飢饉始1833 = 77歳：行政役人時代の詩を収録した「春草堂詩抄」が刊行される。

高島砲術・ ・ ・ 1834 = 78歳：

没した。

ほかに「吾民帖」が刊。

中国地方総合研究センター「歴史に学ぶ地域再生」、「人づくり風土記(広島)」, 平凡社百科事典、